

地域密着型サービス評価の自己評価票(西棟)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人にあった地域との関わり、その人にあったコミュニケーションが取り方を考え、支援を行なっている。	○ 一人一人の関わり方に、より細かく・深く、支援を行なっていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を理解した上で、日々のケアに励んでいるが、実践で悩んだときは、一緒に考えることで理念を共有している。	○ 理念を共有した中で、全体的にスタッフの質の向上を行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の中で生き生きと生活している様子は、日々の買い物や散歩などで理解して頂いていると思う。又、家族には写真等でお伝えできている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所を散歩したり、庭先に出ているときは、積極的に挨拶を交わしている。又、事業所の近辺に自宅がある利用者については、その友人・知人に対し、来訪を促し、実際に来て頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り・運動会・老人会など地域の行事には積極的に参加している。	○ 地域の一員として町内会に入会し、交流を深めて生きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な形でそのような試みをするまでには、至っていない。	○	事業所内での行事・イベント等を計画し、地域の高齢者の方々に参加していただけるように取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、評価報告を受けた上で改善すべきことを皆で話し合い、実施してきた。	○	次回の外部評価での指摘があれば、柔軟に対応していくようにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月の月上旬に運営推進会議の予定	○	今は、まだ分からないが、実施後の反省点など考え、よりサービス向上が努められるように頑張りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談したり、されたり、市町村と連携は図られているが、その連携が、サービスの質の向上につながっているかは分からない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、そのような対象者はいないが、理解している。しかし、知っている職員は一部に限られている。	○	全員の理解を図るため、知識のある職員を中心に勉強会を行うよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り、カンファレンス時に意見交換をおこない、職員個人が一人で問題を抱え込まないよに留意している。又、虐待については、「虐待はいけないこと」程度の認識に留まっている職員も多々見られる。	○	虐待防止関連法に関する講習などを実施。また管理者との個人面接を行い、職員が介護に行き詰っていないか把握していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって契約書をお渡しし、家族全員に見て頂いている。その上で理解・納得していただいているから、契約を結んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時などに、意見や不満を直接言って頂けるように、こちらから聞くようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時・電話などで、定期的にお話している。また、利用請求書を送るときに、手紙を添えて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に、お聞きし、記録をつけたり、玄関前に苦情箱の設置をしている。(契約時にお話しています)	○	施設内の職員だけでなく、民生委員などへお話できるような体制を整えて行けるようにする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、個々にお話できる機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。ただし、施設で企画するイベント等に勤務者を増やしたいが、職員の休日・シフトを考慮すると出来ないことがある。	○	管理者を含め、職員間でその都度、話し合う機会を設け、柔軟に対応できるようにしていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別なことがない限り、異動や離職は最小限に抑える努力はしている。	○	利用者のダメージを防ぐ配慮として、採用時の判断などを十分検討し、又職員が働きやすい職場環境を整えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	シフトの中で、許す限り研修を受ける機会を個々に設けている。	○	職員全員が、ある程度同じ配分で研修を受けられるように努力していく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームと関わりを持ち、勉強会などの研修を一緒に行なっている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	水戸市勤労者福祉サービスセンターへの入会、休日の利用を促している。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	努力することを褒めたり、失敗を励ましたり、各自が介護という仕事にたいし、プライド・向上心をもって働けるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人とのコミュニケーションを取りながら、対応をしているが、認知度の高い方、本人自身から聞くことが困難な方は、家族や居宅介護支援事業所からの情報を参考に支援している。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	運営者・管理者が中心となり、家族と面接を行い、求めることは、出来る限り意向に沿える様に努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いた上で、関連施設・他事業所などの情報を伝え、再度家族を話す機会を持ち、検討してもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現状では、病院・他施設がら移転してくるケースが多いが、体験利用などを行い、家族と相談しながら本人が安心して生活できるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時間や行動を共に生活し、喜怒哀楽を分かち合い、支えあう関係をきずけているが、「介護する」という認識を持つ職員も少数ながらみられる。	○	研修などへの参加を通し、支えあう関係の重要性を認識するようにしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人同様、家族とも遠慮のない支えあう関係を築けていると思う。但し、家族がそれを望まない場合は、それに合った関係を作る努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の両方の思い・話を聴き、両方の立場を理解して上で、良い関係が築けるように支援している。食い違う場合などはバランスを考えながら行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に沿ったかたちで、友人宅への来訪や自宅への帰郷・墓参りなどを行い支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい関係を築けている同士は、一緒に外出したり、病院などの送り迎えを行ったりしている。又、そうでない方も生活の中で職員が間に入りコミュニケーションの架け橋になるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている方の見舞いや入院時の世話(洗濯物など)を行い、関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でのコミュニケーション・介護計画の見直しの時など本人の希望・意向について、きちんと把握している。又それが困難な場合は、日頃の観察(表情や言動)を通し、本人の意思に近づけるように判断している。	○	本人本位の生活が、希望通りできるように職員全員が柔軟に対応できるよう努力していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から中心にお話を聞き、場合によっては、事業所・病院と連絡をとり、情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日の過ごし方は、個人個人さまざまで、居室での生活を好む方・外出が好きな方、職員からの働きかけを待っている方、それに対し、その現状を総合的に把握し、それぞれにあった支援を努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との話し合い(意見・希望)又各職員の意見・アイデアを聞き入れ、それに反映した計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、毎月のカンファレンスを中心に行っている。又、新たな変化が見られた場合は、その都度、家族に現状を伝え、今後の方向性について相談している。その上で職員同士話し合い、現状に即した計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践・結果についての記録は十分書けているが、そこからの工夫・気づきについての記入には、職員間で差がみられる。そのため全員の意見が介護計画に反映されていないと思う。	○	施設長・管理者を中心に気づき・工夫についての記録の重要性・必要性を職員全員に伝えていく努力をする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校の子供達が、自分たちで咲かせた花をホームに寄付して下さったり、小学校・中学校の福祉についての授業として来訪されたり、いろいろと協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療処置が必要な方への訪問看護の実施や福祉用具のレンタルなどの連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	一時的な依頼があり、協働したことはある。	○	必要性に応じ、積極的に行なっていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿って行っている。利用前の主治医をそのまま継続した形で支援している。但し、場所が遠いなどの理由から、了解を得た上で新たなかかりつけの医師をつけることもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時には、家族の了解を得た上で、神経科・脳神経科などの専門医への受診を行なっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	処置の方法・病状の変化など、職員が判断できないときや受診先の相談など看護職員の助言を得ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻繁に面会し、医師・看護師から情報を得た上で、早期退院に備える努力をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のある方を家族や医師と話し合い、方針を共有している。実際にターミナルケアを行なっている利用者もいます。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師との連携を頻繁に図り、ケアプランなどの早急な見直しを行なうなど、チームとしての支援に取り組んでいる。	○	より細かね連携や具体的な支援を図れるように、しっかりと形を作り、行なえるようにしていく。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所・担当者との十分な連携・情報交換・話し合いを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応について、一人一人に合った形を判断し、行なうように気を付けている。但し、全員がきちんと出来ているとは、言えない。	○ 職員の理解度に合わせた外部の研修への参加。施設内での勉強会を行なうことによって、再度、認識してもらう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者によって。意思の確認が困難な方に対しては、スタッフの判断で支援する場合があるが、主に、それぞれの理解力を把握し、混乱・負担をかけないように支援を行なっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った形で支援している。又、こちらから声かけするなどし、日の過ごし方を一人一人のペースで好きな様に生活できるように努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	53同様に支援を行なっている。(積極的に声かけしながら)その中で、一緒に考え行なうように努力している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の生活では、利用者によって準備・片付けにはまちまちであるが、お好み焼きやお鍋などの食事を行なうときは、全員で一緒に行なうことができている。	○ 一月の中で、一人一人の好みを考えた献立(その方にとってのお楽しみ献立)を一緒につくっていくよう努力していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人のアセスメント表は、毎時職員が確認できるように掲示し、把握する努力をしている、その中で体調面を考慮したうえで、希望に沿える様に提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の使用にて、一人一人の大まかな排泄パターンを把握し、パターンに合わせてトイレ誘導を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は午後の時間を中心に行っているが、本人の希望にできるかぎり沿えるように朝・夕の時間帯も状況に応じて提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴に合わせ、レクリエーションなど実施している。又、本人の負担にならない程度に、持てる力に合わせ手伝いなどをやっていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持することを、希望した場合は、家族の了解を得て渡している。又、その小遣いを使っての買い物などの外出を一緒に行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物の外出など、本人の希望に沿って支援している。又、天候が良い時なども、積極的に外へ出るように心がけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けないようなところには、本人の希望を聞いたうえで、施設側で企画し、実施している。又、個別での外出を出来る限り行なっている。又、一年に1度のペースで家族との日帰り旅行などの企画も実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をすることに対しては、本人が好きのように使用して良いように、声かけを行なっている、又常時、子機をホールに置いておくなど、かけやすい環境にすることを努力している。手紙についても同様に行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人などの来訪には日時ともに制限せず、いつでも訪問できるようにしている。又、居室・ホール好きな場所で過ごしていただくようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことへの認識を職員全員に理解してもらい、ケアを行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関(日中)は全く鍵をかけずにケアを行なっている。又、気づかない内に、外へ行かないように注意をしながらケアを行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、居室のドアが閉まっているときは、適宜、様子を把握している。夜間は、1時間毎の巡視・物音などの異常があれば、その都度、訪室し、確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は職員が管理し、洗濯剤・消毒剤などは、利用者の目の届かない場所に置き、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急処置に対する講習を施設内で行なったりし、事故防止に取り組んでいる。		定期的な実施、職員の知識向上への試みをしっかり行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	69同様に取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、毎年、状況を変えながら、どんな場合でも対応できるように実施している。	○	近隣の方も含めた形での実施を試みていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについての家族の了解・話し合いを行なうとともに、抑圧感のない生活へのアセスメント表を中心とした個人の把握を行い、日々職員間で対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に意識し、対応できるように、職員間で話し合い・把握している。場合によっては、主治医・看護師への連携をその都度図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に病院関係に関する資料を作成し、ファイルしている。又、常時、取り出せる場所へ保管している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちの時には、牛乳やヨーグルトの提供を試みたり、水分摂取を促している。又、散歩や軽い体操を行なうようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に合わせた形で声かけ・介助を行い、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いに合わせ、他で代用し、バランスを考えた摂取を心がけている。又、水分摂取には、少量ずつに与えるなどの工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、それをもとに対応・予防を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の衛生管理を徹底し、新鮮なものの購入・消費期限の管理をきちんと行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や入り口に、盆栽や植木鉢を置き、親しみやすい雰囲気心を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには、季節の花を置くように、壁には写真や季節のかざりをレイアウトしている。	○	入居者の作品などを取り入れていきたい。又、好きな絵や個別の趣味に関するものをかざっていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を自由に使用できるようにしてる。(和室・ソファ等)又、日光浴のできるスペースも授けてある。	○	もっと使用しやすいような配慮・工夫を心がけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・小物類など、家族と相談しながら、使い慣れた物を持ってきて頂く様にしている。又、本人の好みや希望に合わせて写真などをレイアウトしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	普段から、居室・室内の換気扇を積極的に使用している。又、天気がよく、暖かい日には窓をあけ、換気に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせた手すりの設置など、その都度、状況を考慮し、おこなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室の場所に混乱される方には、その表示を目の行く場所へ設置している。又、食事時の席にも目印を置いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には、テーブルや椅子があり、天気が良いときなどは、お茶をしたり、日光浴をしたりと楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)